

# 四十八期

(卯月会)

担当者  
衣笠 陽雄

## 三笠宮殿下の思い継承

高橋幸子

三笠宮崇仁殿下は、大正4年に誕生されました。学習院初等科、中等科4年を修了後、陸軍士官学校予科、本科をご卒業、聯隊勤務後陸軍大学校へ入学されました。殿下の御著書『思い出の記』の大学時代の記述には「陸大時代学んだ数多くの課目の中で、最も主要なものが戦術と戦史であり、それぞれ立派な大家が教官であった。中でも戦史の教官は特に人間的に奥深い方々がおられたと思う。戦史は血のかよっている生きた人間の肌に分れる学問であるからだ」とあります。

陸大卒業後も引き続き1年間、同大研究部で戦史を勉強されたそうです。殿下の歴史へのご興味や造詣が一層深くなられたと拝察しております。戦後、殿下が一番考えておられたのは人々の為に皇族として、どのような仕事をなすべきかという自らへの問いでした。

その為には勉強しなければならぬと、学問の道へ進む決意を固められ、東京大学文学部の研究生として、先ずへブライ史に取り組まれました。その後、人類最古の文明である古代オリエント史を学ばれました。オリエントとは、ナイル川流域、チグリス・ユーフラテス河流域、

そしてインダス川流域の古代文明が発達した地域の名称で、今日中近東と呼ばれる場所にほぼ一致します。誠に歴史の根源と宗教、未来まで見据えた進歩的選択でした。その後、東京女子大学や東京芸大で教鞭をとられ、「日本オリエント学会」設立の提唱をされ、満を持して、1979年に東京都三鷹市に、三笠宮様ご発意の中近東文化センターが開館し、宮さまは長く総裁、名誉総裁を務められました。財団は、中近東文化センター附属博物館、附属三笠宮記念図書館、附属アナトリア考古学研究所（トルコ共和国クルシエヒル県カマン郡チャウルカン村）と3つの施設を持ち、トルコ中部カマン・カレホユック遺跡の調査を1985年より開始しました。

一方で宮様は、発掘作業員の若者への奨学金制度設立への助力や資金も提供されたそうです。トルコと日本を結ぶ日本・トルコ協会の名誉総裁でもいらっしゃった三笠宮様の真摯な研究への態度は、両国の人々の尊敬と敬愛を今も集めています。三笠宮記念財団は、研究所が遺跡発掘などの現地に根付いた活動を続けるため、資金の受け入れ先として2017年3月にトルコで同国政府の認可を受け設立されました。

三笠宮殿下の思いは、今も継承されているのです。